

各 位

株式会社 エスライン
(コード番号 9078 東証・名証)

2023年3月期 第2四半期決算発表(参考資料)

連結決算

1. 第2四半期業績の推移

(単位:百万円)

	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期	
	実績	実績	実績	対前期増減率(%)
連結子会社	19社	19社	19社	
営業収益	23,519	23,923	23,779	△ 0.6
営業利益	497	565	293	△ 48.0
経常利益	570	637	363	△ 42.9
親会社株主に帰属する四半期純利益	384	436	231	△ 46.9

【営業収益は2期ぶりの減収、
営業利益、経常利益は2期ぶりの減益】

過去最高実績

(第2四半期)

(単位:百万円)

営業収益	2020年3月期	24,860
営業利益	2019年3月期	890
経常利益	2019年3月期	918
親会社株主に帰属する四半期純利益	2019年3月期	570

2. 通期の業績予想

(単位:百万円)

	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期	
	実績	実績	実績	予想	対前期増減率(%)
連結子会社	19社	19社	18社	19社	
営業収益	48,999	47,782	48,254	50,000	3.6
営業利益	974	1,503	1,314	1,720	30.8
経常利益	1,058	1,629	1,431	1,770	23.6
親会社株主に帰属する当期純利益	3,118	971	966	1,710	77.0

過去最高実績

(通 期)

(単位:百万円)

営業収益	2019年3月期	49,136
営業利益	2019年3月期	1,687
経常利益	2019年3月期	1,756
親会社株主に帰属する当期純利益	2020年3月期	3,118

【第2四半期業績】

- ①トラックによる企業間輸送を主とする「輸送サービス部門」では、
・貨物輸送量は、度重なる値上げにより消費活動が低迷を続けたことで、低調となった。
長距離貨物の減少のため、配送単価の減少傾向が続いた事で減収となった。
- ②商品保管や物流加工を行う「物流サービス部門」では、
・菓子類等の菓篋関連商品が好調を維持した。
・海上コンテナの輸送費高騰等の影響で、衣類等の取り扱い品目を減らす動きもあり、
保管、及び加工業務の取扱量が低調となった事で、物流サービス部門全体では減収となった。
- ③大型商品等の個人宅配を行う「ホームサービス部門」では、
・本年3月に戸田センターを開設し、関東圏の配送エリア拡大を図ったが、
夏の家電商戦は盛り上がり欠けた事で、家電配送業務は低調となった。
・引越しサービスについては、後半の伸び悩みもあり、ホームサービス全体では減収となった。

この結果、第2四半期連結累計期間の営業収益は、237億79百万円(前年同期比0.6%減)となった。
利益面では、各種経費の削減と作業効率・生産性の向上に継続的に取り組み、ドライバーの求人活動も積極的に行い、
自社戦力強化を進めたが、慢性的なドライバー不足の解消までには至らず、
配送業務における外注費用が増加したことで、
営業利益は2億93百万円(前年同期比48.0%減)、経常利益は3億63百万円(前年同期比42.9%減)
親会社株主に帰属する四半期純利益は2億31百万円(前年同期比46.9%減)となった。

【下期に向けた取り組み】

- ・東北地区の家電配送業務を得意とする㈱クリエイトの全株式を取得し子会社化したことで、
更なる家電配送業務の拡大を目指す。
- ・営業活動に注力し、運賃是正交渉を進め、売上を確保する。
更に、求人活動の強化により、自社戦力を拡充する事で、外部委託費用の削減を推進し、
効率化と生産性を向上させ、利益率の改善に取り組む。

3. 設備投資と減価償却費の状況

(単位:百万円)

	2022年3月期		2023年3月期			
	通期実績	対前期増減率(%)	第2四半期実績	対前期増減率(%)	通期予想	対前期増減率(%)
設備投資	2,909	△ 36.8	751	4.1	1,987	△ 31.7
減価償却	1,918	6.0	990	4.0	1,986	3.5

※主な設備投資の状況(車両以外)

海老名支店新築(3月:㈱エスラインギフ)

以 上